

3月号

第445号

いっしん

令和4年(2022年)

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市
加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-62-2895 /FAX 020-4665-5653
Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/ 《HPはカラーです》

甘木親教会
初代教会長
安武松太郎師神歌

母の身が
我身とぞなる
生い立ちし
ことな忘れそ
道な違へそ

立教163年／教祖様139年／教団独立122年／小倉教会布教137年／
甘木親教会布教118年／加治木教会布教71年



甘木親教会 2月17日 朝の積雪

甘木親教会

報徳祭

に引き続き

初代・二代教会長例年祭

仕えられる

二月十七日(木)、甘木親教会では報徳祭が仕えられ、引き続き初代・二代教会長例年祭が仕えられました。

前日の夕方、少し雪が舞っていましたが、翌朝境内は雪化粧となっており、境内も二三センチの積雪で、冬らしい装いとなる中、報徳祭に引き続き初代・二代教会長例年祭が仕えられました。

全国的にコロナオミクロン株の感染者が多くなり「まん延防止措置」が適用される県が増えてきたため、甘木親教会でも感染対策に十分気をつけながらご祭典が仕えられました。

報徳祭は、甘木親教会親先生ご祭主のもと、在籍の先生方十名が祭員につかれてご祭典がお仕えになりました。

例年祭の祭主は堀尾光俊先生(日田教会長)で、初代・二代教会長を

偲びお礼を申し上げる内容の祭詞が奏上されました。

*

例年祭退下前に、祭主を仕えられた堀尾光俊先生（日田教会長）により祭主あいさつがありました。

堀尾光俊先生は、あいさつの中で、日田教会初代の堀尾保治先生が入信当初に聴かれて信心の成長の大きな影響を受けた、上田末太郎氏（小倉教会）が鴨緑江を船で渡る時のおかげ話（当「いっしん」の4〜5ページに掲載）についてお話になりました。

~~~~~

堀尾保治先生は、

「上田末太郎氏のことは、心に刻みつけられているのであります。入信後まだ日浅く、眼に見えぬ神様を、いかにかして、いやが上にもはつきりと認めたい、しっかりとつかみたいと求めて求めて、毎日お参りしてみ教えを心静かに拝聴していたので、信心の生みの親、信心のお手本として慕い懐かしんでいる親先生（安武松太郎先生）から、生きた事実を聞かせて頂いて、私の信心の上に大き

な力を得たのでありまして、それから今日にいたるまで、思い出しては自ら味わい、自ら思いつつ、神様に直面するような喜びを感じるのではありません。」

という気持ちで聞かれたとのことです。

また、二代安武文雄親先生は、昭和二十八年筑後川の洪水の折、原鶴の小野屋で奇跡的に助かるおかげを頂かれるまでの一晩の避難行の中で、堀尾保治先生から聞いていた上田末太郎氏の鴨緑江でのおかげ話を思い出したことが、大変な力とされたことについて、文雄親先生は堀尾保治先生に、

「私たち若い者として、昔のおかげ話など何だか気が向かず、あまり心を入れずに、よい加減に聞き捨てるくせがあるが、これはよほど注意せねばならぬ。あの話も、名前も何も覚えていませんでしたが、事実だけが心に留っていました。おかげを頂く大きな力となりました」

と、お話になられたとのこと。です。

~~~~~

このように、堀尾保治先生が、初



代安武松太郎先生と二代文雄親先生との深い交わりの中で信心のお育てを頂かれ、信心の大切なエピソードとして紹介されました。（上田末太郎氏が鴨緑江を船で渡る時のおかげ話は、4〜6ページに紹介させていただいています。）

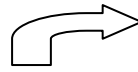
朝御祈念テキストに
 『心神』
 先代の信心
 を求めて



『心神』は、一昨年安武文雄大人二十五周年祭（令和二年十一月二十三日）の折に発行され、偲び草として配布されました。

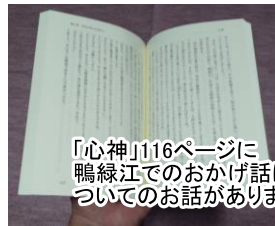
内容は、安武文雄親先生が祭典や会合でお話しされた中から、ご自身の思い出深い信心のご体験などを、ピックアップして時代順に並べて編集されています。

出生から闘病された晩年までのその内容は、七一編・二八〇ページにもおよびますが、膝下にて修行させていただいた者にとりましては、大



変感慨深く、また忘れてはならない信心の遺言・要諦としてお話しされたことばかりのように思われます。朝御祈念の研修で拝読させていただき、感想などを話していますと、時間のたつのも忘れてしまうことしばしばでした。

この「いっしん」三月号の前ページに掲載してあります、堀尾光俊先生がお話しになられた、安武文雄親先生が昭和二十八年筑後川の洪水にて、小野屋で命からがら助かれた折のことも、詳しく記されております。



今、朝御祈念には、この『心神』をテキストとして、二回目を読ませてください。

*

朝参りは、早く起きなければならず、睡眠不足や健康不良になると思われる方がありますが、朝早く起きる稽古は、実際のところ「夜早く寝る稽古」です。

早く寝る稽古をすれば、楽に朝参

りもできます。ただ、夜の楽しいテレビ番組を辛抱しなければなりません。今は録画や、見逃し配信で見ることできます……。

*

教祖様のみ教えにも、

「信心してご神徳を受けよ。自分で頼んでおかげを受けねば間に合わん。まめな時に参りておかげを受けておき、病苦災難のある時は、山、野、海、川、道、どこでも、天地の神様、金光様頼む、と願え。すぐにおかげを受けねば間に合わん。」

「病気災難があつたからといって、にわかには信心を始めるよりは、ふだんから手厚く信心しておれ。手厚い信者であれば、神から心配してやる。いかに大病とか九死とかいう病気でも、峠を越えさせて全快させてやる。とかく信心の地を肥やしておけよ。」

とあるとおりです。まめな時に信心の地を肥やしておきましょう。

（『心神』を求められたい方は、甘木親教会でお分ち下さっておりますので、加治木教会までお知らせ下さい。）

堀尾保治講話集

『ひとすじ』より

上田末太郎氏(小倉教会)の

鴨緑江でのおかげ話

甘木親教会報徳祭後の例年祭で、祭主挨拶の中で、堀尾光俊先生(日田教会会長)がお話しされた、小倉教会 上田末太郎氏のおかげ話。

小倉教会の信者で、後藤寺で手広く商売をしている上田末太郎氏は、商売上のことで大変なおかげを頂かれた時、近所の人たちの中には「上田さんが、後藤寺からはるばると小倉までも(二十キロ)、今日はお祭じゃ、今日は商品の仕入れのお願いじゃ、何じゃかんじゃと再々お参りするが、これほど顕著なおかげがあるとすれば、お参りするはずじゃ」と感心する人があったというほど熱心に信心をしておられました。(中略)

一念、鴨緑江の水も

日露戦争は明治三十七年二月から始まり、同三十八年五月で終わり、八月には講和ができたので、内地からはどしどし朝鮮、満州に進出したのですが、上田氏はその頃、建築請負業を併せて営んでいたので、早速、朝鮮、満州に視察旅行に出かけたのでした。

十月から十一月にかけて、鴨緑江に氷

が張り始めます。極寒の結氷期になれば厚い氷が張りつめるから、人は無論のこと、馬車でもトラックでもズンズン氷の上を通るのですが、寒くなり初めのころが危険だそうで、まだその頃は鉄道もなければ人道の橋もない。渡し船で渡すのですが、満州安東県と朝鮮新義州との間の堤防と堤防との間は一キロもあるので、水の流れている川幅だけでも七、八百メートル、昔の間数で三、四百間もあります。そこを船で渡る間に気候の急変によって、川上から割れた氷が流れているのにサツと薄氷が、一面に張りつめて船が動かなくなることがあります。すると、氷が薄いから船から飛び出して氷の上を歩くこともできません。兩岸には水上警察があり、色々手をつくされるのです。現在のようにヘリコプターはないのでどうにも仕方がありません。寒さはひしひしと迫ってくる。そのまま一夜を過ごせば船の中の人はどこどこく凍え死んでしまう。こういうことで、年々犠牲者が出るということです。

十月の中旬のある日、上田氏は満州側安東県から、是非、朝鮮の新義州に渡らねばならぬ急用があって、渡し場までできたが、渡守の船頭が「天候が今日は危険であるから、船を出さぬ」と言いつつ、「それは困る。何とかして渡してくれ」と頼

んだが、なかなか渡そうと言わない。そのうちに、一人また一人と日本の請負師たちで、急ぐ用件を持った人々が次々と寄って来て、上田氏を加えて八人となりました。皆が、「どうでもこうでも、朝鮮の方に渡らねばならぬ」と言うので「渡銭はいくらでも気張るから、是非渡してくれ」と船頭に頼み、腕きぎの船頭七人を雇いました。船頭たちは腕によりをかけて漕ぎ出した。ところが、天候はますます険悪になり、にわかには寒さを増してきた。中間ぐらいの所まで行った頃、川一面に薄氷が張り始めて、終に船が動かなくなりました。

○

船の周囲の氷を打ち割ってみるが、すぐまた凍りつく、到底、船を動かすことはできない。もはや手のつけようがないこうなると八人の日本人たちはそれぞれに、自分の日頃信する神仏に祈りをこめ、あるいは南無妙法蓮華経、あるいは四国讃岐の金毘羅大権現、あるいは太宰府天満宮と、色々と大きな声で祈り出した。三十分たち四十分たち、そのうちに寒さはますます厳しくなる。危険は益々迫って来た。この時、上田氏は、もう猶予はならぬと思い、皆に向かつて、「皆さん、お互いに運命はすでに決まった。このままでいけば、今夜のうちに皆

凍死せねばならぬことになったが、私はかねて金光教を信心している。金光教はこういふ教えです。天地丸生かしの本体の親神を祀るのです。それで信念次第ではどんなことでも助けられる。いちじるしいおかげが現れるお道です。皆さんも私と同じ心になって、『生神金光大神、天地金乃神』と一心に祈願をこめれば、何とか道がついて助かること疑いなしと思うが、いかがでしょう」

と言えば、皆、異口同音に、

「あなたの言うとおりに拝むから、助かるように頼んでくれ」



現在の小倉教会

と言うようになった。こういふまさか

の場合には、神の名を知っていただけの苦しい時の神頼みよりも、かねての信心があり、おかげの体験を持っている自信のある人の言葉には、おのずから權威を感じるものである。上田氏は懐から小倉教会で頂いた御神米を取り出し、うやうやしく船べりに立て、一心こめてご祈念を始めた。みんなも「生神金光大神様、天地金乃神様」と一生懸命に拝み始めた。約三十分ばかりたった頃、バリバリッという音がした。見れば船の舳先から新義州の方へ向かって、氷に一直線の割れ目ができて、見る見るうちに両方に開いて、約三間(約六メートル)ばかり開いた。

「これは金光様のおかげじゃ、ありがたし」と皆、声をあげてお礼申し、「さあ、今船をやれ」と言うので、七人の船頭たちも揮身の力をこめて漕ぎ出して、ずんずん向こう岸に近づいていく。船の通った跡は、ピシャンと氷は両方からつき合つて、割れ目は全くなくなってしまう。あれよあれよと喜びのうちに、間もなく船は新義州に着いた。後を向いて川を見れば、氷は一面に張りつめて一分の隙もない。一回その場から神様にお礼申して、それぞれに別れ去った。上田氏は用件のため一応内地に帰ったが、京城まで行く汽車中で、一人の旅客が、

「昨日は鴨緑江の真中程で、渡し船が氷にはりつめられて立ち往生して、警察の人たちを始め、たくさんの方が両岸に集まったが、どうにも手のつけようがないようであった。多分、昨夜は皆凍死したであろう。実に気の毒であった」

と、しみじみ話している。そのそばに上田氏がいて、

「それは私たちでした。一行十五人、皆無事、新義州に上がりました」と言うので、「どうして助かりましたか。私は急ぐ用件があったので、その場をたつて、昨日、途中一泊したのですが」と言う。

そこで上田氏は、また、その人に向かって、堂々と金光教のありがたいお道であること、靈験のあらたかなことを大きな声でお話をした。車中皆、耳をそばだてて聞いていた、このことでありました。

甘木の親先生は、ご本部に参拝なさる時、上田氏のご本部へのお礼参りと同行することになり、車中で右の話を詳しく聞いて、帰ってから甘木の信者たちに、このことを詳しく伝えられ、神様のおかげの顕著なこと、信心の尊いことを話されたのでした。

(堀尾保治講話集』ひとすじ『より抜粋)

加治木教会

報徳祭

仕えられる

二月二十三日、九州各県にも「まん延防止等重点措置」が発出される中、加治木教会では報徳祭が仕えられました。

また、報徳祭に引き続いて前教会長矢野政美大人例年祭が仕えられました。

ご教話は、多良木教会長梅木博光先生で、いろんな問題が起こってきてもお取次を頂きながら対処することにより、神様が道付けされ信心の成長へと導いてくださるというお話でした。

前日の御用奉仕は、感染拡大防止のため調理の御用はなく、お広前と二階教師更衣室等の清掃・準備、活け花の準備などがなされました。



前教会長例年祭



報徳祭 ご祭典



各代表
玉串奉奠



前日、二階の更衣室準備や活け花の御用に



金光大阪高等学校 春の甲子園出場！

春の選抜高等学校野球大会 3/18 開幕

3/20 11:30～日大三島高校と対戦

※私立高校の場合、公立高校のように地元の各団体からの大口の援助がありませんので、各教会からも資金面での援助をお願いしますとのことです。

1口 1000円からインターネットで受け付け、
右の金光大阪高校HPの、QRコード➡
からもクリックしてクレジットで送金できます。



感 詠 (教会長)

如月に身まかりましぬ師を偲び

祈念仕へて梅香かぐわし

孤立化に追い込まれては悲惨なる

事件相次ぐコロナ禍入りて

接種せぬ子らの間にひろがりぬ

オミクロン株収まり祈る

如月は柑橘類のみりあり

ジャムのレシピを見てはもくろみ

流されし鉄橋のない橋脚は

寂しく河原に並びたたずむ

あしあと

加治木教会行事記録

2月

1 (火) ●報徳月例祭 10 時半

※御本部信行期間講話ビデオ研修

4 (金) 甘木親教会初代立日

10 (木) ●報徳 月例祭 10 時半

11 (土) 矢野政美大人立日御祈念 10 時

17 (木) ●甘木親教会 報徳祭 11 時

22 (火) ●月例祭(祭典のみ) 10 時半

” 祭典後 清掃御用

23 (祝・水) ●加治木教会 報徳祭

26 (日) 多良木教会 報徳祭 11 時

28 (月) 清掃御用 10 時

ご霊神様のおまじり

三月

川畑ツネ 之霊神(1日) 昭和44年

中野サ子 之霊神(1日) 平成13年

永原スミ子 之霊神(1日) 平成20年

有蘭トシ 之霊神(2日) 平成26年

内村源二 之霊神(3日) 平成5年

野口益三 之霊神(5日) 平成26年

信國幾雄 之霊神(6日) 昭和42年

大山定二 之霊神(7日) 昭和61年

荒木美至 之霊神(7日) 平成18年

本中野重則 之霊神(12日) 平成24年

矢野クラ 之霊神(13日) 昭和31年

松田モト 之霊神(15日) 昭和62年

信國徹志 之霊神(18日) 昭和52年

松田セイ 之霊神(20日) 昭和18年

前田広実 之霊神(21日) 昭和36年

瀬尾田鶴子 之霊神(22日) 平成30年

吉屋茂樹 之霊神(25日) 平成4年

津上陸奥 之霊神(29日) 昭和53年

本中野金四郎 之霊神(30日) 昭和4年

市来キヨ 之霊神(31日) 令和2年

柳園ヨシ 之霊神 平成25年

「先祖のご霊神様の、現世・幽冥(かくりよ)でのお働きあつての今日の私たちであります。

立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。教会では、十日の月例祭で、霊前で霊祭をお仕えし、玉串の奉てんを準備しています。

三月二十一日(祝)

午前十時半より

春季霊祭 奉仕

〔ご祭典(春季霊祭・勧学祭)後、教話
※霊祭申込用紙をお結界にお届け下さい。

四月一日(金) 午前十時半より

月例祭に併せて

勧学祭 奉仕

健康な成長と学業成就の、御礼と
お願いを申し上げます。

※参拝の少年少女にはお直会があります。

四月二日(土) 三日(日)

天地金乃神様

御本部御大祭 参拝

出発 二日 午前七時

帰着 三日 午後九時頃

※このたびは、各教会から五人までの代表参
拝です。祭場内や会堂内に「三密(密集、密
接、密閉)」の状況が発生しないように留意
して参拝させていただきます。

教会行事

3月

- 1 (火) ●報徳月例祭 10時半
 - 3 (木) 甘木親教会参拝日
 - 9 (水) 清掃御用 10時
 - 10 (木) ●報徳月例祭 10時半
 - 13 (日) 矢野クワ刀自立日 御折念 十時
 - 20 (日) 清掃御用 10時
 - 21 (祝月) ●春季霊祭 10時半
 - 22 (火) ●月例祭・共励会 13時半
 - 31 (木) 清掃御用 10時
- 《未定行事》青年会・若婦人会

4月

- 1 (金) ●報徳月例祭 10時半
- 2 (土) 3 (日) ●御本部御大祭 参拝
- 7 (木) 中村家霊祭
- 9 (土) 清掃御用 10時
- 10 (日) ●生神金光大神様月例祭 10時半
- 14 (木) 連合会執行部会 十時半、加治木教会
- 16 (土) 少年少女会(野外活動)
- 21 (木) 清掃御用 10時
- 22 (金) ●月例祭・共励会 13時半
- 25 (月) 甘木親教会 御大祭
- 30 (土) 清掃御用 10時

新田原教会一年祭

※多良木教会 御大祭

※(連)青少年行事企画会議 十時半、鹿兒島教会

三月十二日(土)・十三日(日)

に計画されていきました、

連合会主催

典楽講習会 は

コロナウイルス感染症防止対策のため延期
になりました。

祝 金光大阪高等学校、春の甲子園出場！